

海老名市人口推計の上方修正について

1 概要

令和2年度から令和11年度までを期間として策定した本市の総合計画「えびな未来創造プラン2020プラン」（以下「20プラン」という。）において、令和8年の目標人口として設定していた人口14万人を3年前倒しで達成する見込みです。

従来 of 想定を上回るかたちで人口が推移していることから、将来人口を再推計し、上方修正しましたので報告します。

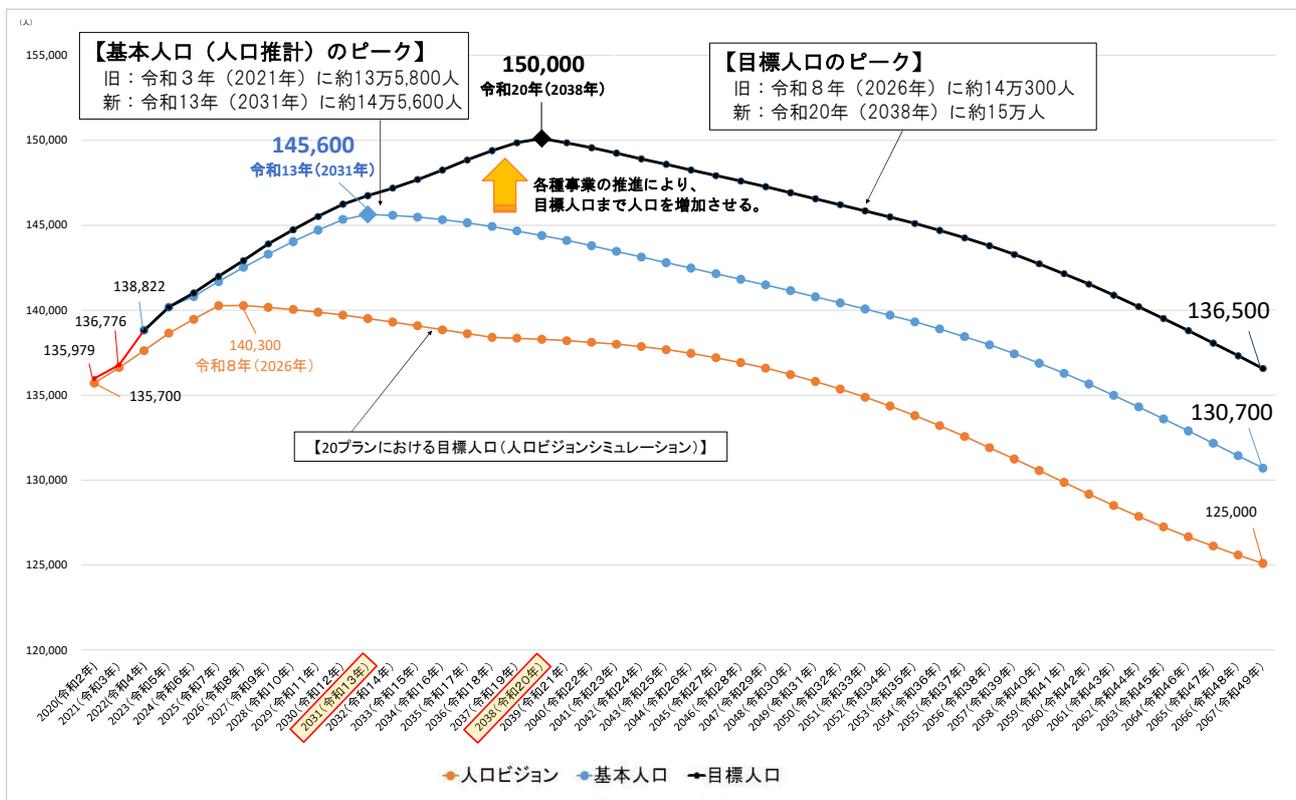
2 再推計内容

最新の合計特殊出生率等のデータを使用し、基本人口（人口推計）及び目標人口を令和49年（2067年）まで推計しました。

基本人口（人口推計）は、令和13年（2031年）に14万5,600人に到達と推計しました。

目標人口は、令和20年（2038年）をピークに15万人を掲げます。

【基本人口と目標人口の推計】



◎この件に関する問い合わせ

海老名市財務部企画財政課 電話 046-235-4634

転入超過数の年齢区分による動向分析

1 本市の状況（住民基本台帳移動報告の分析）

総務省が毎年公表している住民基本台帳移動報告における 2022 年の調査結果※によると、海老名市の転入超過数は 2033 人と県内 6 位（全国 19 位（昨年は 33 位））。

本市の年少者（0～14 歳）の転入超過数は、276 人で県内 3 位（全国 21 位）。年少者を細かく 3 つの階級に分けると、

「0～4 歳」は 216 人で県内 3 位

「5～9 歳」は 46 人で県内 6 位

「10～14 歳」は 14 人で県内 12 位

また、親の世代に当たる

「30～34 歳」は 411 人で県内 3 位

「35～39 歳」も 256 人で県内 3 位

「40～44 歳」は 143 人で県内 5 位

「45～49 歳」は 29 人で県内 13 位

なお、「50～54 歳」は県内 9 位

「55～59 歳」については県内 14 位と親世代の転入と比較して順位を落としている。

このことから、藤沢市と同様に、結婚や出産などライフステージの変化を契機に子育て世帯が定住先として本市を選んでいることが伺える。

【参考：県内順位⇒別紙参照】

※【令和 5 年 1 月 30 日公表】

総務省統計局 住民基本台帳人口移動報告 2022 年（令和 4 年）結果

(<https://www.stat.go.jp/data/idou/2022np/jissu/youyaku/index.html>)

2 人口増加の要因等

- 海老名駅西口地区の企業である「日立ビアメカニクス」の跡地に建設されたマンション（民間開発）の影響が大きい。駅周辺に開発された大規模マンションは、現在 9 棟あるが、別に 1 棟完成の予定があるため、今後も一定規模の転入が見込まれる。
- 年少人口、生産年齢人口、老年人口の年齢 3 区分人口において、現総合計画「えびな未来創造プラン 2020」期間中はいずれも増加を続け、老年人口は計画期間後期になるにつれ増加傾向となる。年少人口については微増が続き、生産年齢人口は増加傾向が継続する。
- 平成 30 年から令和 4 年における各地区の人口増減の実績をみると、顕著な人口の増加がみられるのは駅周辺の開発が絡む 3 地区（扇町、めぐみ町、泉）。

各年齢階層 県内順位 (2022年 住民基本台帳移動報告)

別紙

順位	転入超過数		年少者						親世代(30~49歳)							
			0~4歳		5~9歳		10~14歳		30~34歳		35~39歳		40~44歳		45~49歳	
1	横浜市	8,426	1 藤沢市	404	1 藤沢市	169	1 横浜市	64	1 横浜市	917	1 藤沢市	581	1 藤沢市	331	1 藤沢市	145
2	藤沢市	3,201	2 茅ヶ崎市	322	2 鎌倉市	125	2 藤沢市	49	2 藤沢市	612	2 茅ヶ崎市	258	2 横浜市	311	2 平塚市	128
3	相模原市	3,110	3 海老名市	216	3 茅ヶ崎市	92	3 茅ヶ崎市	49	3 海老名市	411	3 海老名市	256	3 茅ヶ崎市	195	3 鎌倉市	115
4	川崎市	2,209	4 平塚市	148	4 平塚市	61	4 平塚市	39	4 茅ヶ崎市	393	4 横浜市	251	4 相模原市	188	4 相模原市	88
5	大和市	2,085	5 相模原市	138	5 葉山町	50	5 大和市	31	5 相模原市	371	5 鎌倉市	236	5 海老名市	143	5 茅ヶ崎市	83
6	海老名市	2,033	6 鎌倉市	112	6 海老名市	46	6 厚木市	29	6 大和市	288	6 平塚市	203	6 鎌倉市	129	6 大和市	83
7	平塚市	1,567	7 秦野市	104	7 逗子市	39	7 座間市	28	7 平塚市	125	7 大和市	195	7 平塚市	94	7 座間市	42
8	茅ヶ崎市	1,560	8 大和市	103	8 相模原市	38	8 鎌倉市	23	8 鎌倉市	95	8 相模原市	169	8 厚木市	68	8 秦野市	41
9	厚木市	1,021	9 綾瀬市	91	9 綾瀬市	34	9 相模原市	22	9 小田原市	94	9 小田原市	120	9 秦野市	62	9 横須賀市	38
10	鎌倉市	855	10 小田原市	88	10 秦野市	30	10 伊勢原市	20	10 厚木市	90	10 綾瀬市	84	10 大和市	54	10 厚木市	38
	海老名市	6位 2,033		3位 216		6位 46		12位 14		3位 411		3位 256		5位 143		13位 29

若い(单身と思われる)世代

	20~24歳		25~29歳	
	1	川崎市	7,668	川崎市
2	横浜市	6,150	横浜市	1,211
3	相模原市	634	大和市	561
4	大和市	625	海老名市	434
5	伊勢原市	280	藤沢市	401
6	厚木市	246	茅ヶ崎市	177
7	海老名市	159	座間市	154
8	座間市	68	相模原市	110
9	箱根町	64	厚木市	107
10	綾瀬市	55	綾瀬市	87
		7位 159		4位 434

生産年齢人口(50歳以上)

	50~54歳		55~59歳	
	1	平塚市	145	平塚市
2	藤沢市	96	秦野市	71
3	小田原市	86	鎌倉市	61
4	茅ヶ崎市	63	小田原市	52
5	相模原市	58	茅ヶ崎市	49
6	座間市	43	相模原市	35
7	秦野市	40	藤沢市	31
8	三浦市	35	南足柄市	26
9	海老名市	34	厚木市	25
10	横須賀市	30	三浦市	21
		9位 34		14位 12

【参考データ：全国順位（住民基本台帳移動報告から抜粋）】

表18 転入超過数の多い上位20市町村（2022年）

					(人)					
順位	市町村	2022年			対前年 増減数	順位	市町村	2022年		
		2022年	2021年	対前年 増減数				2022年	2021年	対前年 増減数
1 (1719)	東京都特別区部 (東京都)	21,420	-14,828	36,248	11 (12)	八王子市 (東京都)	3,161	3,563	-402	
2 (1)	さいたま市 (埼玉県)	9,282	10,527	-1,245	12 (10)	相模原市 (神奈川県)	3,110	3,837	-727	
3 (4)	大阪市 (大阪府)	9,103	7,893	1,210	13 (18)	仙台市 (宮城県)	2,938	2,288	650	
4 (3)	札幌市 (北海道)	8,913	9,711	-798	14 (9)	流山市 (千葉県)	2,786	3,889	-1,103	
5 (2)	横浜市 (神奈川県)	8,426	10,123	-1,697	15 (13)	町田市 (東京都)	2,784	3,470	-686	
6 (5)	福岡市 (福岡県)	6,031	7,158	-1,127	16 (11)	柏市 (千葉県)	2,479	3,722	-1,243	
7 (7)	つくば市 (茨城県)	3,818	4,643	-825	17 (15)	川崎市 (神奈川県)	2,209	2,768	-559	
8 (6)	千葉市 (千葉県)	3,519	5,920	-2,401	18 (17)	大和市 (神奈川県)	2,085	2,580	-495	
9 (8)	藤沢市 (神奈川県)	3,201	4,554	-1,353	19 (33)	海老名市 (神奈川県)	2,033	1,082	951	
10 (16)	船橋市 (千葉県)	3,172	2,728	444	20 (32)	所沢市 (埼玉県)	1,927	1,090	837	

注1) ()内の数字は2021年の順位
 注2) 東京都特別区部は1市として扱う。
 注3) 「-」は転出超過を表す。

【参考表5】 転入超過数の多い上位20町村（2022年）

					(人)					
順位	町村	2022年			対前年 増減数	順位	町村	2022年		
		2022年	2021年	対前年 増減数				2022年	2021年	対前年 増減数
1 (2)	阿見町 (茨城県)	990	556	434	11 (15)	読谷村 (沖縄県)	275	236	39	
2 (6)	大泉町 (群馬県)	593	355	238	12 (49)	杉戸町 (埼玉県)	266	119	147	
3 (26)	八重瀬町 (沖縄県)	489	198	291	13 (16)	筑前町 (福岡県)	264	235	29	
4 (47)	苅田町 (福岡県)	467	121	346	14 (8)	吉岡町 (群馬県)	260	308	-48	
5 (3)	軽井沢町 (長野県)	420	507	-87	15 (4)	菊陽町 (熊本県)	256	403	-147	
6 (625)	八千代町 (茨城県)	364	-52	416	16 (5)	寒川町 (神奈川県)	244	360	-116	
7 (24)	益城町 (熊本県)	350	209	141	17 (35)	開成町 (神奈川県)	238	149	89	
8 (34)	岡垣町 (福岡県)	346	150	196	18 (10)	御代田町 (長野県)	232	278	-46	
9 (22)	須恵町 (福岡県)	310	214	96	19 (90)	西原村 (熊本県)	229	51	178	
10 (29)	大治町 (愛知県)	286	175	111	20 (206)	南幌町 (北海道)	224	8	216	

注1) ()内の数字は2021年の順位
 注2) 「-」は転出超過を表す。

表19 年齢3区分別転入超過数の多い上位20市町村（2022年）

順位	0~14歳		順位	15~64歳		順位	65歳以上	
	転入超過数 (人)	順位		転入超過数 (人)	順位		転入超過数 (人)	順位
1	さいたま市 (埼玉県)	1,520	1	東京都特別区部 (東京都)	47,678	1	札幌市 (北海道)	2,278
2	町田市 (東京都)	948	2	大阪市 (大阪府)	13,188	2	福岡市 (福岡県)	709
3	つくば市 (茨城県)	766	3	横浜市 (神奈川県)	8,814	3	さいたま市 (埼玉県)	701
4	流山市 (千葉県)	758	4	さいたま市 (埼玉県)	7,061	4	千葉市 (千葉県)	697
5	印西市 (千葉県)	713	5	札幌市 (北海道)	6,080	5	相模原市 (神奈川県)	593
6	八王子市 (東京都)	668	6	福岡市 (福岡県)	5,571	6	八王子市 (東京都)	449
7	藤沢市 (神奈川県)	622	7	川崎市 (神奈川県)	5,228	7	高崎市 (群馬県)	405
8	柏市 (千葉県)	580	8	船橋市 (千葉県)	2,939	8	青梅市 (東京都)	397
9	札幌市 (北海道)	555	9	仙台市 (宮城県)	2,920	9	平塚市 (神奈川県)	312
10	茅ヶ崎市 (神奈川県)	463	10	つくば市 (茨城県)	2,800	10	前橋市 (群馬県)	308
11	糸島市 (福岡県)	424	11	千葉市 (千葉県)	2,509	11	名古屋市 (愛知県)	277
12	奈良市 (奈良県)	413	12	相模原市 (神奈川県)	2,326	12	仙台市 (宮城県)	261
13	小平市 (東京都)	408	13	藤沢市 (神奈川県)	2,319	13	藤沢市 (神奈川県)	260
14	小石川市 (兵庫県)	406	14	八王子市 (東京都)	2,044	14	つくば市 (茨城県)	252
15	枚方市 (大阪府)	384	15	大和市 (神奈川県)	1,937	15	町田市 (東京都)	249
16	江別市 (北海道)	376	16	流山市 (千葉県)	1,822	16	柏市 (千葉県)	245
17	箕面市 (大阪府)	327	17	川口市 (埼玉県)	1,786	17	熊本市 (熊本県)	240
18	千葉市 (千葉県)	313	18	茨木市 (大阪府)	1,692	18	宇都宮市 (群馬県)	235
19	合志市 (熊本県)	289	19	尼崎市 (兵庫県)	1,685	19	太田市 (群馬県)	233
20	上尾市 (埼玉県)	277	20	柏市 (千葉県)	1,654	20	吹田市 (大阪府)	220

注) 東京都特別区部は1市として扱う。